

令和元年をふりかえる

ユーキャン新語・流行語大賞は「ONE TEAM」、今年の漢字は「令」に決まり、いつになく納得感のある選定結果となりました。さて、今回のCBCA NEWSは、年末恒例、今年の印象的な出来事を取り上げ、令和元年をふりかえます。

✚ 平成から令和へ

今年の最も大きな出来事は、やはり令和の誕生でしょう。昭和から平成への改元と異なり、今回は退位による皇位継承であったことから、国民感情としても喜びに満ちた新元号への移行となりました。新天皇と皇后さまの立ち振る舞いに対する国民の評価も高く、とても良好なスタートを切ったと感じられます。皇位継承に係わる様々な行事とそれを包み込む温かいムードを思うと、今後は退位による皇位継承がスタンダードになるのではないのでしょうか。

その一方で、宮家である秋篠宮家に関しては、眞子さまの婚約問題以降、芳しくない報道を目にすることが少なくありません。さらに、将来の天皇継承候補の問題も、議論が進まず棚上げ状態のままです。世論は女性天皇容認の雰囲気広がりがつつありますが、今のままでは愛子さまも悠仁さまも、どっちつかずのまま成長していくこととなります。小さいころから天皇になることを意識し教育された現在の陛下のように、次世代の天皇が立派に立ち振る舞えることができるか、まだ先のことはありますが少々心配になります。

✚ グレタさんと台風19号

米タイム誌「今年の人」に史上最年少の16歳で選ばれた、スウェーデンの環境活動家、グレタ・トゥーンベリさん。彼女の行動力とメッセージには本当に驚かされました。気候変動対策の遅れを憂い、たったひとりで抗議のストライキ活動を始めたのが1年前。それが今では「フライデー・フォー・フューチャー（未来のための金曜日）」と呼ばれる大きなムーブメントとなり、地球温暖化問題に立ち向かう若きリーダーと目されています。9月にニューヨークで開催された、国連気候変動サミットでのグレタさんのスピーチは圧巻でした。「How dare you（よくもそんなことを）」のフレーズばかり注目されがちですが、どの言葉も力強く、聴く者の心を大きく揺さぶるものでした。

（余談ですが、筆者は「How dare you」が新語流行語大賞にノミネートされると予想していたのですが、dareの発音が難しいので、日本では流行りにくいフレーズだったかたかもかもしれません。）

一方で、石炭火力発電へ注力する日本は「化石賞」という不名誉を与えられ、地球温暖化ガス削減に消極的な国と非難されています。国際会議に出席する小泉環境相がやり玉に挙げられていますが、環境庁が日本のエネルギー政策を司っている訳ではないので、マスコミもミスリードするような報道ではなく、政府や世論に実のある問題提起をして欲しいものです。

今年の台風19号の被害は、とても激しく広範囲に渡るものでした。タワーマンションが洪水被害に遭い、北陸新幹線が集団で水浸しになったニュースの映像は、異常気象の現実を改めて見せつけるものでした。グレタさんが大人になって偉くなるのを待っている余裕はありません。

✚ 高齢ドライバーとひきこもり問題

4月、東京・池袋で高齢ドライバーが運転する車が暴走し、3歳女兒と母親が亡くなる痛ましい事故が起きました。その他にも、高齢ドライバーを中心に、ブレーキとアクセルを踏み間違えるなどの運転ミスによる事故のニュースが相次いでいます。

しかしながら、東京都心部はともかく、地方での移動手段として自家用車は欠かせない存在です。とくに近年、人口減少が進む地方では、徒歩圏の小売店舗が縮小しており、郊外型のショッピングセンターへ車で出向き、日常の買い物をしなければならない方の割合が増えています。病院へ通う必要のあるかたも多いでしょう。地方のシニア層にとって自動車は必需品です。そう簡単に、運転免許の自主返納が進むものではありません。

政府は2021年秋以降の新車に自動ブレーキを義務付けする方針を固めました。全ての車に搭載されるまでにはかなりの時間を要しますが、とても望ましい一歩だと思います。

他方、若年中年問わず、ひきこもりと思われる人物に係わる不条理な事件が増えています。5月の、川崎市のスクールバスのバス停付近で起こった無差別殺傷事件。6月には、元農水事務次官がひきこもりの息子を殺害するという悲惨な事件が起きました。

政府は中年ひきこもり支援に本腰を入れ、今後3年で重点対策を取る方針です。もちろん望ましいことです。ただそれ以上に、いじめやストレスから逃げてひきこもることを寛大に見る今の風潮そのものを是正する必要があると思います。一時的な非難とひきこもりは全く別物として、社会復帰は当然すべきことと皆が再認識することから始まるのではないのでしょうか。

✚ ラグビー人気とこれからの日本

TOKYO 2020を控えた今年、各種のスポーツが盛り上がりを見せました。特に、ラグビーW杯での日本選手の活躍には大いに盛り上がりました。パスをつなぎトライを決める試合そのものの面白さも勿論ですが、個性あふれる選手たちの魅力が強く感じられ、観るものをより惹きつけました。もちろん、選手の能力が高く、加えてキャラクター揃いだったこともあります。なにより様々な人種や出身・文化圏の方が混合したチームであることが、個々の個性をより際立たせていたように思います。

ラグビーのこのチームを、将来の日本が目指す姿だと評した方がいました。人種や出身にとらわれることなく、海外からの色々な方を受け入れ、みんなで力を合わせて、これからの日本を盛り上げていこうという意味です。全くもって同感です。令和元年はそのスタートであると思います。

一般社団法人全国経営診断士協会

〒112-0004

東京都文京区後楽 2-2-17 NBD 三義ビル

TEL : 03-3812-8211 FAX : 03-3812-8213

mail@cbca.jp

http://www.cbca.jp

お問い合わせ先